

開催報告 分科会

日本医療マネジメント学会2008年度第3回 クリティカルパス実践セミナーin熊本

ークリティカルパスの見直しークリティカルパスの
見直し方法を実際に体験し、日常診療の改善に繋げるー
東京女子医科大学呼吸器センター外科 村杉雅秀



グループワーク風景

2009年2月18日、19日の両日熊本で開催された2008年度第3回クリティカルパス実践セミナーに参加させていただきました。

今回、種々のクリティカルパスが運用されている他施設、他職種の方々

とグループワーク形式での検討でPDCAサイクルの重要性、EBM、ベンチマークによるクリティカルパス見直しの実際を体験させていただきました。更には実際にゲートウェイ方式、オールバリエーション方式での積極的な見直し手法を実際に用いているクリティカルパスが違う各施設の方々との経験させていただき、アウトカムの設定、それに伴うタスクの設定、バリエーションの考え方など各施設で行われているクリティカルパスの見直しの方向性のヒントを見いだせたのではないかと考えております。

さらに第56回国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会に参加させていただき、病院全体でのクリティカルパスに対する積極的な取り組みと、その全病院的な理解の高さに驚き、当院でも更なる啓発活動の必要性、クリティカルパス大会のあり方などの検討の余地を痛感いたしました。

最後にセミナーの開催にあたり膨大な資料の準備、多数のお手伝いを頂きました国立病院機構熊本医療センターの皆様へ感謝申し上げますとともに、東京女子医科大学推進室としても良質の医療を提供するクリティカルパスの全国的な普及に更に貢献できるように務めていきたいと考えております。

2008年度第2回地域連携クリティカルパス分科会

テーマ：がんの地域連携クリティカルパスの実践と課題
医療法人伴帥会愛野記念病院地域医療連携室看護師 黒田美穂



基調講演風景

2009年2月28日(土)、日本医療マネジメント学会2008年度第2回地域連携クリティカルパス分科会が国立国際医療センターにて開催されました。

まず、日本医科大学医療

管理学教室主任教授 長谷川敏彦先生より「がん医療における医療連携の重要性」と題して基調講演が行われました。がん医療の目標は大きなパラダイムシフト「治癒からQOL・・・アウトカムからプロセスへ」が大切と話されました。さらに、国民(=患者様)にも地域の資源、それぞれの医療機関の役割・機能・能力などの現代社会の理解を得ることが連携の秘訣と話されました。

次に「がん地域連携クリティカルパス事例報告」として、胃がんなどの地域連携クリティカルパスについて3名の先生方より報告があり、さらに国際医療福祉大学三田病院副院長 武藤正樹先生よりがん地域連携クリティカルパス研究事業(谷水班)の紹介がありました。この報告の中で地域連携コーディネーターの紹介もあり、これからは医療界だけでなく地域の保健・福祉とのシームレスな連携も不可欠であり、患者様の視点に立ちコーディネートしていく新たな役割が必要と感じました。



パネルディスカッション風景

パネルディスカッションでは「がんのシームレス連携を目指して」というテーマで、地域連携クリティカルパスをうまく活用するためにはなどの活発な議論がなされ、実状の把握と実状に即したものを

を検討していく必要があり、医師会の医師(開業医)と共同して作成していくことが重要性であるとの発表がありました。このディスカッションにより患者様を中心とした医療を行い、どこでも患者様が安心して医療を受けられるよう医療の質を保証していかなければいけないと感じました。

最後に厚生労働省健康局総務課がん対策推進室長前田光哉先生よりがん難民に対する救済対策やがん医療の発展に寄与していきたいとの心強い特別発言がありました。会場より様々な活発な意見があり、大変勉強になる有意義な分科会でした。

支部学術集会開催報告

第8回福井県支部学術集会

学術集会会長：福井大学医学部第一外科講師 飯田 敦

第8回日本医療マネジメント学会福井県支部学術集会が2009年1月31日(土)に福井県福井市の福井県民ホール(AOSSA 8階)で開催されました。「医療安全の取り組みと現状」をテーマに福井県内の5ヶ所の医療機関より発表があり、福井大学医学部国際社会医学講座、医療倫理・医療安全学領域教授 井隼彰夫先生の司会の下、シンポジウムの中で活発な討論が行われました。参加者の関心は高く、福井県外からの参加者も認められ、フロアからも活発な質疑応答がありました。また、県内各施設から